

(論文博士) (様式 8)

濱寄 真由美 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題目 Development of a Self-Management Scale of PMS during Childrearing Periods and Examination of its Validity and Reliability

(育児期の月経前症候群セルフマネジメント尺度の作成と妥当性・信頼性の検討)

The Kitakanto Medical Journal 68(1) (in press) (平成30年2月掲載予定)

Mayumi Hamasaki and Yoko Tokiwa

論文の要旨及び判定理由

欧米での先行研究によれば、出産後の高率な月経前症候群 (PMS) の発症との関係、PMSと産後うつ病発症との関係、PMSと子どもへの虐待との関係が示唆されている。筆者らの先行研究では、PMSと診断された母親には月経前に子どもへの否定的感情があった。筆者らは産後に月経が再開した母親がPMS症状の程度を認識し、PMS症状と育児に伴うストレスとの関連を知ることで、PMSに伴う育児ストレスへの対処行動の動機づけを高め、効果的な対処行動選択につながるのではないかと考えた。本研究の目的は、育児期の月経前症候群 (PMS) のセルフマネジメント尺度を作成し、その妥当性・信頼性を明らかにすることである。対象はA県の13保育園または幼稚園の0~6歳児をもつ20~44歳の母親で、1,640名に育児期の月経前症状を測定する48項目から成る質問紙を配布し、回収は878名 (回収率53.5%)、そのうち有効な797名の回答 (有効回収率90.8%) を分析対象とした。PMSあり群454名 (57.0%) を因子分析 (主因子法、プロマックス回転) し、38項目、5因子が抽出された。本尺度とParenting-Stress Indexショートフォーム、エジンバラ産後うつ病自己調査票、ソーシャルサポートスケールとの相関が示され、基準関連妥当性が確認された。Cronbach's α は0.91、下位尺度の信頼性係数は0.79~0.94であった。折半法のSpearman-Brownの公式で算出した係数は0.74と高い信頼性が確保された。

以上より育児期の月経前症候群セルフマネジメント尺度は、高い信頼性・妥当性のある尺度であることが確認された。本尺度はPMSの程度を母親が自覚し、子どもへの対応の変化につながることを期待される有用な尺度であり、子どもへの虐待予防に貢献すると認められ、博士 (保健学) の学位に値するものと判定した。

平成30年2月9日

審査委員

主査	群馬大学教授 (保健学研究科) 看護学講座	森 淑江	印
副査	群馬大学教授 (保健学研究科) 看護学講座	近藤 浩子	印
副査	群馬大学教授 (保健学研究科) 生体情報検査科学講座	林 邦彦	印

参考論文 なし